

仕事納め式にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

今年もあっという間に年末を迎えました。

いつもこの時期になると、一年の時間の経過が早く感じられ、これまでの日々の暮らしや果たすべき業務の達成具合などが気にかかります。

今年を振り返ってみると、まず思い起こされるのが 1 月末に思いがけない記録的な寒波に見舞われ水道管が凍結破裂し五日間以上に及ぶ断水を余儀なくされることによって市民の皆様にご不便をおかけしたことでした。さらに 4 月に発生した観測史上例のない九州地方おける震度 7 を記録した熊本地震もありました。

これまでの「温暖な平戸で著しい寒波や積雪はありえない」とか「九州では比較的大規模な地震は起こらない」などという思い込みが最早通用しないということを痛感し、改めて自然の猛威に打ちのめされた思いをいたしました。

これらに加えて、今月 22 日に発生しました新潟県糸魚川市中心部の大規模な火災も甚大な被害となりました。発生から約 30 時間に及ぶ大火は、約 150 棟を延焼し、363 世帯 744 人に避難勧告が出され住民 2 人、消防団員 9 人のけが人が確認されたとのことでした。幾つもの悪条件が重なったとはいえ、ちょっとした火の不始末・不注意がこのような大惨事を招くことになったことは決して他人事とは言えません。改めて年末年始にかけて火の用心の呼びかけを徹底するとともに、被災者の皆様の安寧と早急な復旧復興をお祈りしながら、市民の皆様とともに安心安全のまちづくりの実現のための防災行政を徹底してまいりたいと思います。

そして今年は期待していた思惑が外れた残念な、まさに「思わぬ落とし穴」とか、「想定外」といった表現が当てはまるような出来事がありました。

その一つは世界遺産登録を進めていた「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」においてイコモスの事前調査による取り下げと名称変更の勧告がなされ、その結果「田平天主堂」が外されたことです。再申請という

ことで「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」と名称変更をし、平成 30 年度登録を目標に仕切り直しを余儀なくされましたが、大きな転換点となりました。

もう一つは、テレビ番組「劇的ビフォーアフター」におけるリフォーム案件として進めてきた平戸市観光交流センター「レストハウス」の改修事業ですが、これもテレビ局の番組終了に伴い、事業の進め方を原点に立ち返り丸ごと見直すということとなりました。いずれもメディアに大きく取り上げられ話題となりましたが、事業の意義が否定された訳ではなく、仕切りなおしによる再スタートを切った訳ですから、この二つの事業を注目してくださる多くの市民や平戸ファンの皆様の期待に応えるためにも、心機一転して思いも新たにがんばってまいりたいと思います。

一方、本市の基幹産業の一つでもある観光業においても大きな局面を迎えることとなりました。老舗ホテルの民事再生手続きや経営陣の交替などこれまでの団体客仕様から個人客への対応、またコストパフォーマンスの見直しなど観光客ニーズの変遷に伴う改革改善が求められています。本市では、鄭成功山門完成による東アジアからの誘客の増加や「ねんりんピック 2016」のゲートボール交流大会、日本最大で九州初の第 33 回「センサ・マイクロマシンと応用システム」シンポジウムの開催、さらに県レベルの各種大会や研修会・総会などの開催が実現したことで例年を上回る交流人口の増大に寄与できたと思われませんが、依然宿泊客数は伸び悩んでいます。近隣自治体に格安の宿泊施設が進出し、その周辺の道路状況が改善されることによってこうした傾向は強くなるものの、本市としては多くの資源や魅力を有していることから、滞在時間を長くしてもらい宿泊へとつなげていくアプローチが重要な戦略でありますので、今後とも官民協働の観光戦略を構築していく必要があると思います。

そうした中、農林水産業においては明るい話題も届きました。

大島生まれで県種雄牛「勝乃幸」号が現場後代検定において日本一の

栄冠を勝ち取ることとなりました。さらに平戸の秋の味覚でもある「アゴ漁」において平年を大きく上回る高値で取引され、これらはメディアで広く報道されることによって、平戸ブランドとしての魅力が存分に発信されました。こうした流れは、首都圏においてすでに実績のあるアンテナ居酒屋「平戸漁港六次郎」や板橋区大山商店街の「とれたて村」、そして有楽町の「平戸マルシェ」などに加え、新たに1月14日にオープンする恵比寿ガーデンプレイスにある「恵比寿三越」の食品フロアにおける「平戸マルシェ」などとの相乗効果も相まって力強い戦略となっていくことが期待されます。

これまでに市民の皆様との幾つもの協働事業によりたくさんのメディアに取り上げられ、そのことはすでに珍しいことではなくなった感じがいたしますが、他の自治体から羨望の眼差しが寄せられていることも確かな事実です。こうした魅力の発信を粘り強く継続し、その価値を市民の皆様と共有していくことが自信と誇りにつながり、平戸市が「ずっと住み続けたいふるさと」に発展していくこととなります。

「平戸市総合戦略」がスタートして2年目となり、また平成30年からを節目とする次期平戸市総合計画の策定作業が新年度から始まります。市内各地で広がっている小学校区単位のまちづくり運営協議会についても、自立した持続可能なまちづくりが実現できるよう相互に連携を強化してまいりましょう。

時代の流れとともに行政課題も変容し、解決に向かうニーズも多様化しています。それらに立ち向かうためには、伸びやかな発想や柔軟な思考をもって、他の先進事例を掴み取る情報収集・分析力や「誰と組むか」といった連携する「巻き込む力」を存分に発揮し、ずっと住みたいまち創出条例の理念を成就できるよう、皆さんとともに新年に向け、決意を新たにす次第であります。

最後になりましたが、本日は辻議長、山内副議長はじめ議員各位には

わざわざご臨席を賜りご激励を頂きましたこと誠にありがとうございました。来年も引き続きご指導ご助言くださいますようお願い申し上げます。

以上をもって仕事納めのご挨拶と致します。

終わります。